ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.

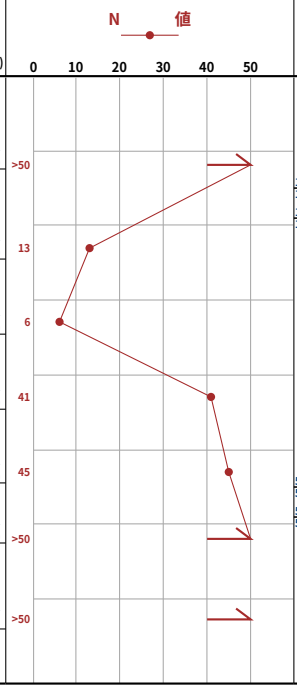
シートNO.

ボーリング名	B-4(測点No.70+50m左岸)	調査位置				北　緯	36 ° 28 ' 57.5200 "
発 注 機 関	栃木県　宇都宮土木事務所			調査期間	2009-12-09 ～ 2009-12-10	東　経	139 ° 53 ' 25.4200 "
調 査 業 者 名		主任技師		現　場 代 理 人		コ　ア 鑑 定 者		ボーリング責任者	
孔 口 標 高	81.73 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	試 錐 機		ハンマー落下用具	
総 掘 進 長	7.00 m								エンジン		ポ ン プ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
1					盛土・シルト質砂礫 (BS/GSM)	灰 暗褐灰		中位	最上部5cmはアスファルト，0.15mまで30-0の砕石。 以深、GL-0.4～0.8mのシルト分優勢区間で礫混りシルト状を呈す以外はシルト質砂礫から成る。礫はφ5～20mmの亜円礫を主体に最大φ50mm程を点在し、又、玉石分の混入度合いもやや高く、コア長3cm前後(推定φ80～100mm)を主に、最大コア長12cm(推定φ300～400mm程度)をも認める。		
2	79.43	2.30	2.30		シルト (M)	暗褐			含水やや高く、粘性中位で軟らかい。性状は均質で乱した形跡は無い。		
3	78.33	1.10	3.40		礫混り砂 (S-G)	暗茶褐	密な		中～粗砂分を主体に局所で細粒土分を含有する。礫はφ5～30mmの亜円礫を散在する。		12/10 4.45
4	77.63	0.70	4.10		砂礫 (GS)	茶灰	非常に密な		礫はφ5～20mmを主体に最大φ70mm程を点在し、又、コア長3～5cm(推定φ80～150mm程)を主径に最大コア長15cm(推定φ300～500mm程度)の玉石分をも混在する。 礫間充填物は中～粗砂分と少量の細粒土分で構成される。		
5											
6											
7	74.33	3.30	7.40								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	7	43／0		50／10	>50
1.25					
2.15	7	4	2	13／30	13
2.45					
3.15	1	1	4	6／30	6
3.45					
4.15	13	13	15	41／30	41
4.45					
5.15	14	15	16	45／30	45
5.45					
6.15	15	35／0		50／10	>50
6.25					
7.15	17	18	15／5	50／25	>50
7.40					



原位置試験

深度 (m)	試験名および結果
1.50	現場透水試験
1.50	現場透水試験
1.90	k=4.2×E-4
1.90	k=4.2×E-4
5.50	現場透水試験
5.50	現場透水試験
5.90	k=8.0×E-3
5.90	k=8.0×E-3

深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
1.00	B-4-1		土粒子の密度試験・土の含水比試験・土の粒度試験・土の湿潤密度試験・土の含水比試験・土の液性限界・塑性限界試験・土の湿潤密度試験・土の含水比試験・土の三軸試験・土の圧縮試験・土の圧密試験・土の透水試験・土の圧密試験・土の圧密試験・土の圧密